



千円札とモダンメディア

東京都教職員互助会三楽病院
臨床検査科 部長
とう じょう なお こ
東 條 尚 子
Naoko TOJO

現在の千円札紙幣の肖像は夏目漱石に代わり、2004年から細菌学者の野口英世が選ばれました。日本紙幣の肖像として科学者が選ばれたのは初めてです。また、2024年7月3日から新しい紙幣に改札が予定されています。新千円札の肖像は、細菌・微生物学者で、「近代日本医学の父」と呼ばれる北里柴三郎です。二代続けて細菌・微生物学者が選ばれました。モダンメディアは細菌学・微生物学を多く取り上げています。2013年～2015年のコンテンツに竹田美文先生ご執筆による「明治・大正・昭和の細菌学者達」が12回掲載されました。このシリーズの中に北里柴三郎（2014年（60巻）2号、4号）、野口英世（2015年（61巻）2号、4号）があります。野口英世は北里柴三郎が所長を務める国立伝染病研究所発足時、助手をしており、その時来日したサイモン・フレクスナーとの運命的な出会いが渡米のきっかけになったことなどが記されています。

このシリーズ掲載時、竹田先生は公益財団法人野口英世記念会の副理事長をなさっていました。ちょうど2015年4月1日に猪苗代町にある野口英世記念館がリニューアルオープンしたので、モダンメ

ディアから取材をお願いして訪問することになりました。とても興味があったので、探訪子に立候補しました。記念館の展示物とその説明のクオリティーは高く、次世代を担う子供たちに科学に興味を持ってもらうよう工夫した取組みがたくさんありました。2013年から竹田先生が始められた無料の出前授業（遠足や修学旅行で見学を予定している小中学校に事前に出向き、野口英世の生涯と業績を説明する）は現在も継続されています。また、現在はホームページから野口英世の Journal of Experimental Medicine に掲載された104編の論文をPDFで閲覧することができます。この訪問体験が強く印象に残っていたので振り返って紹介しました。ご興味があれば、「明治・大正・昭和の細菌学者達 番外編」（2015年（61巻）10号）を御覧ください。

最後に、十分にお役に立てなかったと反省しきりですが、編集委員の先生方ならびにモダンメディア編集担当の方々に感謝申し上げます。なお、編集会議後、編集委員の岩田敏先生と帰宅路をご一緒しながらのお話も楽しかった思い出の一つです。



野口英世記念館に一緒に訪問した
モダンメディア編集室の大森圭子さん（左から4人目）
最後の編集会議（2022年9月7日）